

「模擬国連会議で学ぶ問題解決法」 シラバス v1.1

基礎情報

科目名：全学自由研究ゼミナール／高度教養特殊演習「模擬国連会議で学ぶ問題解決法」

時期：A セメスター 火曜日2限（10時25分～12時10分）

場所：駒場キャンパス 17号館 KALS

学年：1～4年生 単位：2

教員：中村長史 ████████@kals.c.u-tokyo.ac.jp

概要

国際社会で生じる問題は、自然現象ではなく社会現象である以上、一人一人の力によってわずかながらでも良くすることもできるし、さらに悪くしてしまうこともあります。履修者の皆さんには、この点を意識し、自分の頭で国際問題の解決策を考えられるようになってほしいと考えています。

そこで、この授業では、「模擬国連会議 (Model United Nations)」というアクティブラーニングの手法を用いて、国際問題の解決法を考えます。多様な利害・価値観に配慮することの重要性を理解するには体感してみることが早道ですが、模擬国連会議では、一人一人が米政府代表や中国政府代表などの担当国になりきって国際問題について話し合います。立場を固定されている点ではディベートと同様です。しかし、相手を論破することで勝利を目指すディベートと異なり、模擬国連会議では合意形成が目的であるため相手の利害・価値観を尊重したうえでの妥協が重要になります。この点を重視し、授業内では対立の激しい議題・担当国を設定して、ロールプレイ・シミュレーションに取り組みます。

目的

本講義で学んだ概念と事例を使いこなして、現在の世界における問題の構図や原因、解決法を自分の頭で考えられるようになる。

到達目標

- ① 国際問題の構造や原因を説明できる【中間レポートで評価】
- ② 国際問題をめぐる多様な立場（利害・価値観）を説明できる【中間レポートで評価】
- ③ 国際問題の解決における妥協の重要性を説明できる【中間レポートで評価】
- ④ 国連の資料を自ら調べて国際問題の分析に用いることができる【期末レポートで評価】
- ⑤ 国際問題の解決策について、選択肢を複数挙げて比較衡量したうえで、妥当と考えられるものを説得的に示すことができる【期末レポートで評価】
- ⑥ 模擬国連会議の教育手法としての特徴を説明できる【期末レポートで評価】

形態

模擬国連会議によるロールプレイとシミュレーションを中心に進めます。国連広報センターの職員の方による資料検索実習や、外交・報道等の現場で活躍中の模擬国連会議経験者によるゲスト講義を挿む可能性があります。

構成

【第1部：模擬国連会議から学べること】

第1回(9/24) ガイダンスー模擬国連会議という手法の特徴

【第2-1部：シリアの人道危機を考える】

第2回(10/1) 議題の概説と担当国決め

第3回(10/8) 模擬国連会議(シリア)①

第4回(10/15) 模擬国連会議(シリア)② &高橋尚子氏(国連)の講評

第5回(10/29) 模擬国連会議(シリア)③

第6回(11/5) 模擬国連会議(シリア)④ &山崎茉莉亜氏(外務省)の講評

第7回(11/12) 模擬国連会議(シリア)のふりかえり

【第2-2部：イラク戦争を考える】

第8回(11/19) 議題の概説と担当国決め

第9回(11/26) 模擬国連会議(イラク)①

第10回(12/3) 模擬国連会議(イラク)②

第11回(12/10) 模擬国連会議(イラク)③ &梁田真樹子氏(読売新聞)の講評

第12回(12/17) 模擬国連会議(イラク)のふりかえり

【第3部：模擬国連会議から学べること】

第13回(1/7) 総括

*次頁のグラフィックシラバスも参照

授業外学習

- ・ 模擬国連会議における議題や担当国のリサーチ
- ・ 模擬国連会議における発言内容や会議行動の検討

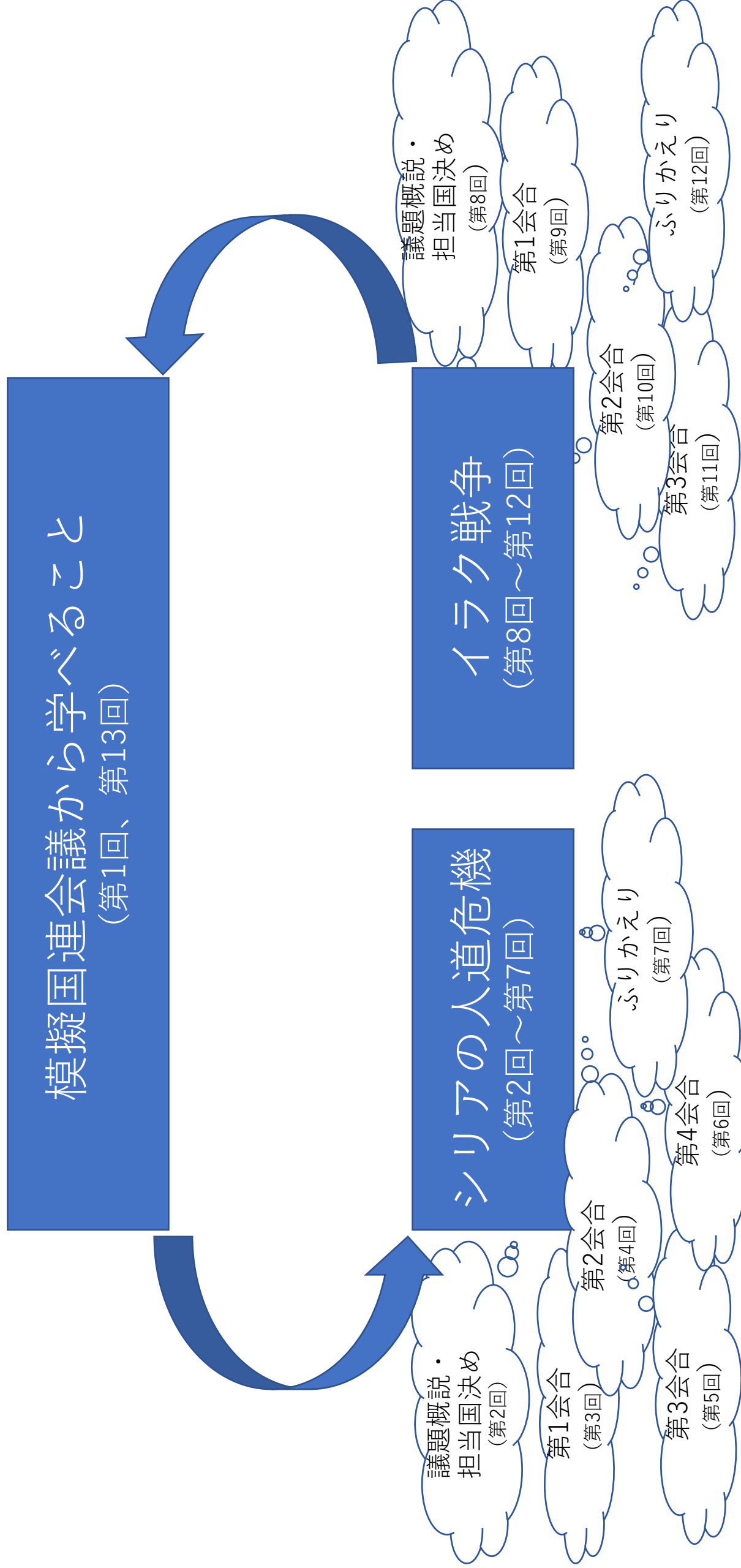
成績評価

期末レポート(50%)：〆切 1/14

第1回中間レポート(25%)：〆切 11/19

第2回中間レポート(25%)：〆切 12/24

図 授業の構造



教科書

なし

参考書

随時伝えます

ルール

「学びに集中できる雰囲気づくり」のため、以下のルールを設けます。

- ① 提出期限を遅れての課題提出は、いかなる理由であれ、受け付けません。
- ② 配布物の予備は保管しないので、欠席した場合は、他の受講者から借りてください。
- ③ 講義中の飲食は原則禁止します。体調によりやむを得ない場合は認めますが、机上には飲食物を置かないようにしましょう。
- ④ 講義中の私語や通話は厳禁です。
- ⑤ レポートについて酷似した答案を発見した場合は、いずれも 0 点とします。

履修者の皆様へ

授業に出席し、毎回出される教員からの問い掛けについて考えることを積み重ねていけば、レポートが自ずと完成するような授業の仕組みになっています。一方、出席しない場合はもちろん、漫然と出席してはレポートで苦しむこととなり、単位取得が危うくなってしまいます。模擬国連会議のロールプレイ・シミュレーションを楽しみながら、国際問題の構造・原因・解決法について丹念に調べ深く考え、仲間と意見交換を重ねるような、能動的学習を目指しましょう。

【模擬国連経験者の方々へ】

教員（中村）は大学時代に模擬国連会議のサークルに毎週参加し、全国大会の運営や高校への普及活動などにも携わっていました。そこから得られたものの大きさを研究者・教育者になって改めて実感し、この度、授業で全面的に扱うことにした次第です。模擬国連会議のスタイルや重視される点は国や校種によって違いがありますし、この授業では上記の到達目標を意識して進めるため、皆さんの経験してきたものと違う面もあるかもしれませんが、是非「大学の授業での模擬国連」で一緒に学んでいければと思います。

【模擬国連未経験者の方々へ】

未経験でも、まったく問題ありません。上述のように、特定の到達目標に基づいたスタイルで行ないますので、ある意味、全員初体験となります。教員が従来の模擬国連会議から学んだことに加え、新たな教育効果の可能性についても一緒に模索していきたいと思います。少しでも関心を持った方は、まずは是非ガイダンスにお越しください。